

会 議 録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-4566-2511

附属機関又は 会議体の名称		令和3年度 未来戦略創出会議(第7回)
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		令和3年12月24日(金) 13時45分～14時00分
開催場所		庁議室(本庁舎5階) ※一部の委員・幹事はZoom会議にて参加
議題		(1)令和4年度当初予算案について
公開の 可否	会議	☐ 公開 ☒ 非公開 ☐ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区行政情報公開条例第7条第1項第5号による
	会議録	☐ 公開 ☐ 非公開 ☒ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 資料は、政策形成段階の資料のため非公開
出席者	委員	区長・副区長(2)・教育長・政策経営部長・国際文化プロジェクト推進室長・総務部長・危機管理監・施設整備担当部長、区民部長(欠席)・文化商工部長・環境清掃部長・保健福祉部長・健康担当部長・池袋保健所長・子ども家庭部長・都市整備部長・地域まちづくり担当部長・建築担当部長・土木担当部長・会計管理室長・教育部長・選挙管理委員会事務局長、監査委員事務局長(欠席)、区議会事務局長
	幹事	企画課長・財政課長・行政経営課長・区長室長・広報課長・総務課長
	説明者	財政課長
	事務局	企画課企画調整グループ係長

審議経過

(1) 令和4年度当初予算案について

幹事 資料に基づき、令和4年度当初予算案について説明。

まず、主要な一般財源歳入の推移について説明する。

特別区民税については、平成22年度にリーマンショックの影響で前年度比マイナス15億円という大幅な落ち幅を記録したが、その後は右肩上がりに増収となり、令和2年度は過去最高の315億円となった。令和3年度の決算見込では308億円、令和4年度当初予算では、303億円を見込んでいる。令和3年度の当初予算では292億円を見込んでいたが、決算見込では308億円となっている。新型コロナウイルスの影響は受けたものの、リーマンショック時と比べると影響を受けた企業が限られていたこともあり、減収は小さなものとなったと考えている。

財政調整交付金については、リーマンショック時には平成21年度に前年度比マイナス39億円の大幅な減となったが、その後は緩やかに回復し、令和元年度は過去最高の337億円となった。しかし、令和元年度から令和2年度にかけては新型コロナウイルスの影響により、前年度比マイナス40億円となり、リーマンショック時を上回る大幅な減収となった。ただ、リーマンショック時は翌年度の回復が小幅であったのに対し、令和3年度の決算見込では落ち幅の約半分もの大幅な回復となっている。令和3年度の当初予算では282億円を見込んでいたが、決算見込では321億円を見込んでいる。これは、当初予算では東京都の財調フレームに基づきかなり固く見込んでいたためである。東京都の見通しでは、令和4年度の財調フレームでは、固定資産税が対前年度比3.3%の増、市町村民税法人分が40.9%の増と大幅な増となると示されており、区への交付金は対前年度比13.3%増の見込みとなる。これに基づき、令和4年度当初予算では317億円を見込んでいる。

続いて、現時点での令和4年度当初予算案について説明する。歳入予算総額は、1,309億円で、令和3年度の1,302億円から7億円の増となっている。主な内訳としては、特別区民税で11億円の増、地方消費税交付金で12億円の増、財調普通交付金で35億円の増、財調特別交付金は据え置きとなり、合わせて58億円の増収を見込んでいる。

続いて歳出予算総額は、1,357億円で、令和3年度の1,302億円から55億円の増となっている。主な内訳をみていくと、人件費は対前年度比4億円の増、事業費は令和3年度の884億円から936億円と51億円の増、投資的経費は前年度と同額となっている。事業費の主な内訳をみると、扶助費は対前年度比12億円の増、基金積立金は8億円の増、その他一般行政経費は31億円の増となっている。投資的経費は総額では同額だが、内訳をみると、施設建設経費のうち市街地再開発事業は前年度比52億円と大幅減となっている。

現時点での歳入と歳出の差引額は49億円のマイナスとなっており、このままの額で確定した場合は、財政調整基金からの繰入金と同額の49億円となる見込みである。

最後に貯金と借金の推移について説明する。令和2年度決算では、貯金と借金の差額は87億円、令和3年度末の見込みでは17億円、令和4年度当初予算案ではマイナス36億円の見込みとなっている。

区長 貯金と借金について、令和4年度当初予算案では差額が大きくマイナスとなる見込みだが、どのように分析しているか。また、借金が貯金を超過するのは何年ぶりか。

幹事 実際には、予算と決算では大きく額が変わる。令和2年度予算でも、起債を約56億円と見込んでいたが、実際に起債した額は十数億円であった。このように予算と決算では大きく乖離するため、今後も分析は要するが、実際はプラスマイナスゼロに近い値になるのではないかと考えている。また、平成27年度からは貯金超過で推移していたため、借金超過となるのは8年ぶりである。

⇒提案の通り決定する。

※資料 3-7-1「令和4年度当初予算案について」は、政策形成段階の資料のため、非公開とする。

会議の結果	(1)令和4年度当初予算案について →(1)について決定
提出された資料等	・資料 3-7-1 令和4年度当初予算案について ※政策形成段階の資料のため、非公開とする。